令和元年度スポーツ庁委託事業
「Special プロジェクト 2020 体制整備事業」

徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業　成果報告書

令和２年３月

徳島県教育委員会

本報告書は、スポーツ庁のSpecialプロジェクト2020体制整備事業として、徳島県が実施した令和元年度徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

2020 年東京パラリンピック競技大会が目前に迫る中，さまざまなパラスポーツが各地で盛んに取り組まれ，メディアにとりあげられるようになりました。障がい者スポーツの裾野を広げていくために，障がいのある方がスポーツを楽しめる環境の整備が大変重要になっています。

また，オリンピック・パラリンピックは，スポーツの祭典であるとともに文化の祭典でもあり，各地で文化プログラムが開催されるなど，気運の醸成が図られており，障がいのある人の芸術・文化活動が一層推進されているところです。

こうした中，平成 29 年度より取り組んでいる Special プロジェクト 2020 体制整備事業を今年度も継続して実施いたしました。

具体的には，スポーツ分野において，重度障がい者も楽しめる「ボッチャ」を県下全ての特別支援学校で実施し，ボッチャを通じた交流及び共同学習を推進するとともに，ニュースポーツにも取り組み，カローリング等の実践により，広く地域との交流を深めるための活動を展開いたしました。さらに，徳島視覚支援学校では，障がい特性に応じてゴールボールを実践し，徳島聴覚支援学校では，卓球部の活動でスキルアップを図るなど，それぞれの特別支援学校のニーズに応じたスポーツ振興を図りました。

また，芸術・文化活動においては，全ての特別支援学校が参加し，デジタル技術をいかしたアート作品や地域との交流による共同制作の作品等を柱とした特別支援学校アート展の開催や，スーパーマーケットと連携した地域での作品展示など，地域に向けた発信方策を検討してまいりました。

さらに，世界遺産登録を目指している「四国八十八箇所霊場と遍路道」の県内霊場札所における，特別支援学校の生徒によるお接待活動の中で，小物作品の配布や，アート作品の展示を通して，広く県内外の方々への理解啓発に取り組みました。

事業の実施にあたり，県内の全ての特別支援学校の協力を得て活動に取り組むとともに，徳島県障がい者スポーツ協会，徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター，芸術専門家，経済関係者，教育関係有識者，県障がい福祉課等の参画により実行委員会を組織し，活動内容の検討を行いました。

本報告書は，上記内容を実践した成果を検証するために，作成したものです。多くの方々にご覧いただき，忌憚のない御意見，御助言を賜れば幸いです。

最後になりますが，本事業の実践にあたり，御指導，御協力をいただいた，関係機関の方々や各特別支援学校の皆様方に，厚くお礼申し上げます。

令和２年３月

令和元年度　徳島県「Specialプロジェクト2020」体制整備事業　成果報告書（目次）

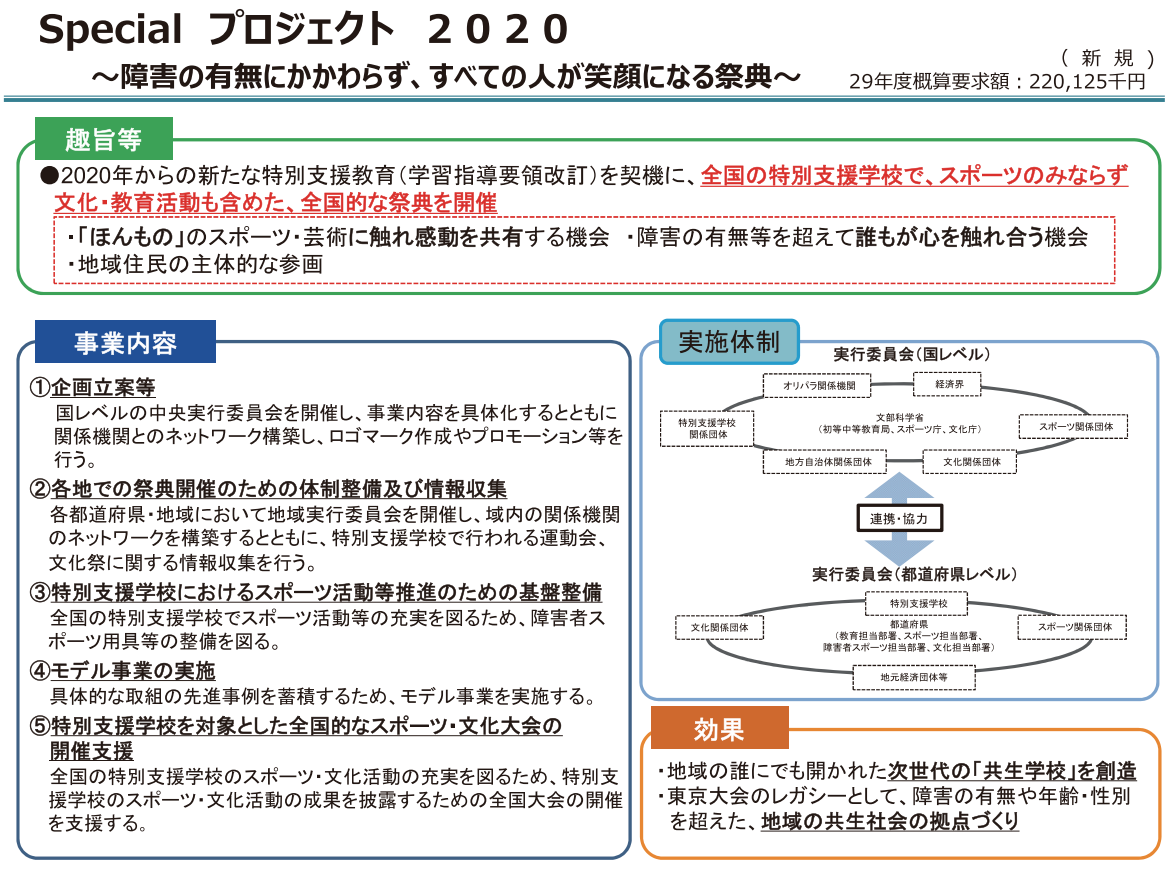
徳島県「Specialプロジェクト2020」体制整備事業

１　事業の目的・概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　県立特別支援学校の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
２　取組のまとめ（平成29年度～令和元年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
Ⅰ　実行委員会
１　実行委員会概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
２　検討状況
第１回実行委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９
第２回実行委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
第３回実行委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
Ⅱ　活動報告
１　スポーツ活動
（１）　特別支援学校ボッチャ交流会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
（２）　ボッチャ体験会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
（３）　ボッチャ伝達講習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
（４）　各特別支援学校におけるボッチャの実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
（５）　徳島視覚支援学校，徳島聴覚支援学校におけるスポーツ活動の振興　・・・・・２０
（６）　ニュースポーツをとおした地域との交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
２　芸術・文化活動
（１）　専門家との連携とアート作品制作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（２）　作品制作をとおした地域との交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
（３）　地域におけるアート展の開催　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
（４）　四国八十八ヶ所霊場札所でのお接待活動における作品の展示と配付・・・・・・３０
（５）　アート展の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
３　活動の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業

1　事業の目的・概要

特別支援学校が，地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点となり，2020 年東京オリンピック・パラリンピックを契機に開催される全国的な祭典の支援体制を整備することを目的として，本事業を推進する。そのために，外部専門家との連携によるデジタルアート等の作品制作をとおして児童生徒の芸術的才能の開花を促すとともに，地域の文化遺産である四国霊場札所での作品展示を含めた「児童生徒のアート作品展」を開催し，障がい者の芸術・文化活動に対する特別支援学校の機能を強化する。また，国立特別支援教育総合研究所が実施する「特別支援学校『体育・スポーツ』実践指導者協議会」への派遣及び伝達講習を通して，特別支援学校を拠点とした障がい者の体育・スポーツ活動の充実を図る。さらに，芸術・文化及び障がい者スポーツ関係の専門家，経済団体等の委員により構成する体制整備事業実行委員会において本事業の評価と改善を行うとともに，事業終了後にも特別支援学校が地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点の役割を担う方策について検討を行う。

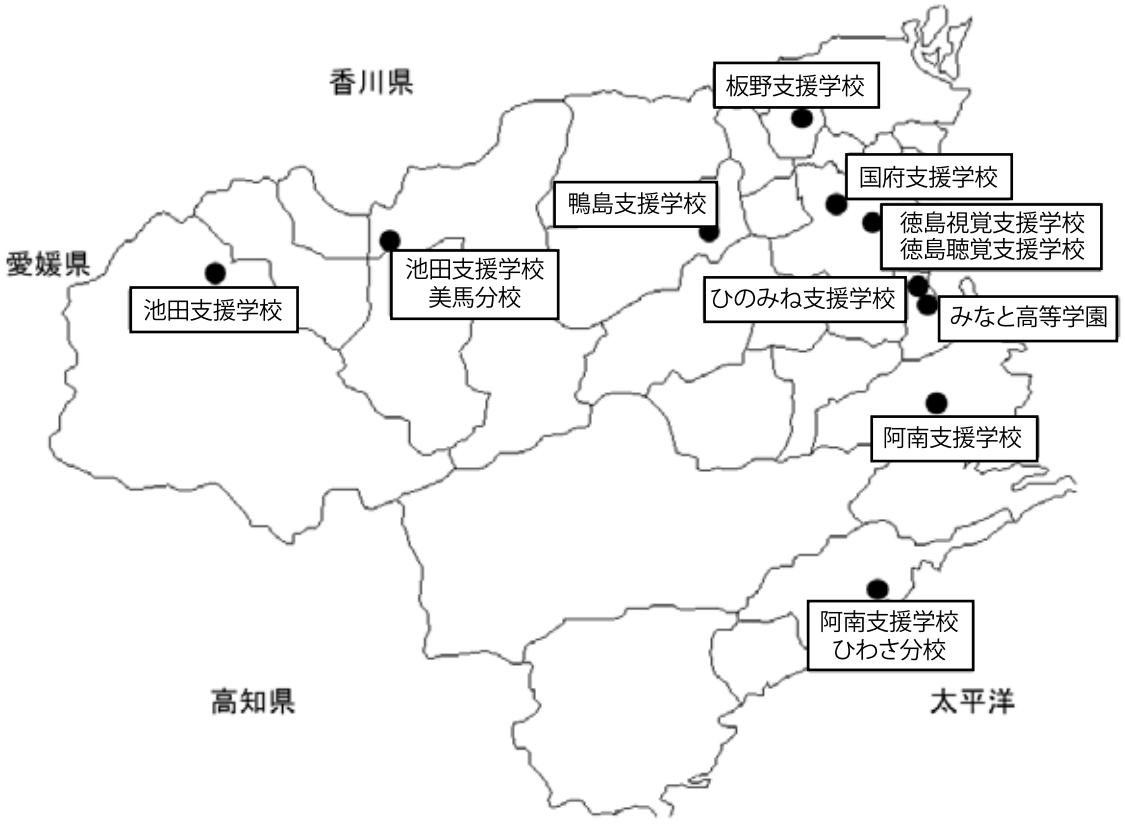


2　県立特別支援学校の概況

徳島県内には，県立の特別支援学校が 11 校設置されており，概要は次のとおりである。

（R1.5.1 現在）

	学校名	所在地	学部　生徒数	障がい種
1	徳島視覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 22 名	視覚障がい
2	徳島聴覚支援学校	徳島市南二軒屋町	幼小中高 47 名	聴覚障がい
3	板野支援学校	板野郡板野町	小中高 203 名	肢体不自由，病弱，知的障がい
4	国府支援学校	徳島市国府町	小中高 287 名	知的障がい
5	鴨島支援学校	吉野川市鴨島町	小中高 22 名	肢体不自由，病弱
6	ひのみね支援学校	小松島市中田町	小中高 52 名	肢体不自由
7	阿南支援学校	阿南市上大野町	小中高 127 名	知的障がい
8	阿南支援学校ひわさ分校	海部郡美波町	小中高 13 名	知的障がい
9	池田支援学校	三好市池田町	小中高 88 名	知的障がい
10	池田支援学校美馬分校	美馬市美馬町	高 38 名	知的障がい
11	みなと高等学園	小松島市中田町	高 89 名	知的障がい，病弱



スポーツ活動の充実

ボッチャの普及促進！

ボッチャ交流会

学校対抗で楽しくゲーム
なかよく交流できました
（特別支援学校４校参加）

授業や放課後活動等でボッチャ

ねらいを定めて投球しました
（学部集会）

とても盛り上がりました
（体育の授業）

作戦を練りながら投げます
（寄宿舎で実施）

ボッチャ伝達講習

先生もボッチャを学んでいます

ボッチャで地域と交流

一緒に盛り上がりました（高校生との交流）

ゲームで楽しく対戦
（高校３校との交流）

ねらいどおりに投げたいな
（福祉施設の方々との交流）

どちらの勝ちかな？
（中学生との交流）

試合は楽しい！（パラスポーツ大会に参加）

地域との交流が活発に！

さまざまなスポーツへの広がり

徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校でのスポーツの振興

ゴールボール

体全体でボールを
キャッチ

卓球

スキルアップを
めざして練習

ニュースポーツで地域と交流（地域の学校・スポーツクラブ等）

グラウンドゴルフ

一打で決まって楽しい
（中学生との交流）

カローリング

上手な投げ方を教わりました
（スポーツクラブとの交流）

芸術・文化活動の充実

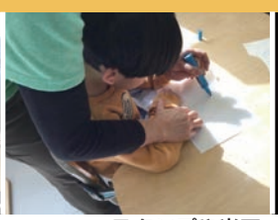
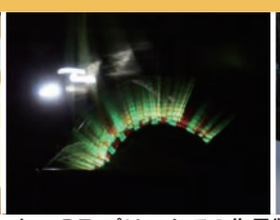
スポーツ・アートをとおし

地域・専門家との連携による作品制作！

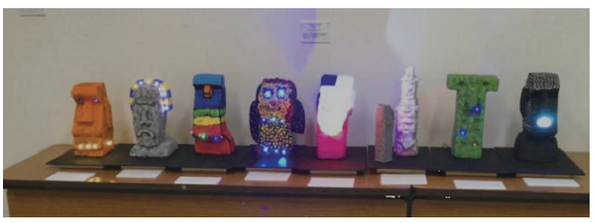
新しいアートにチャレンジ（専門家との連携）

映像にあわせて
ライブ・ペインティング

3D ペンに挑戦

スタンプや光アート、3D プリンタでの作品制作


LED アートで世界遺産の
モアイを表現

地域の学校、大学生との交流による作品制作

和気あいあいと
色とりどりの作品を完成
（高校３校との交流）

打ちとけて楽しく制作
（中学校との交流）

かも先生　かもたん
（鴨島支援学校）

着ぐるみ制作

みなっち
（みなと高等学園）

学校キャラクターの着ぐるみ制作（四国大学の学生との交流）

アート作品やさまざまな取組の発信！

地域でのアート展

身近なスーパーマーケットで作品展示

作品をたくさんの方々に見ていただきました。やる気につながります！

札所での作品配布・作品展示

手作り作品は、お遍路さんに喜ばれています

きらめきアート展

県内の特別支援学校 12 校の結集により開催

特別支援学校のアート作品と特色ある取組を発信！

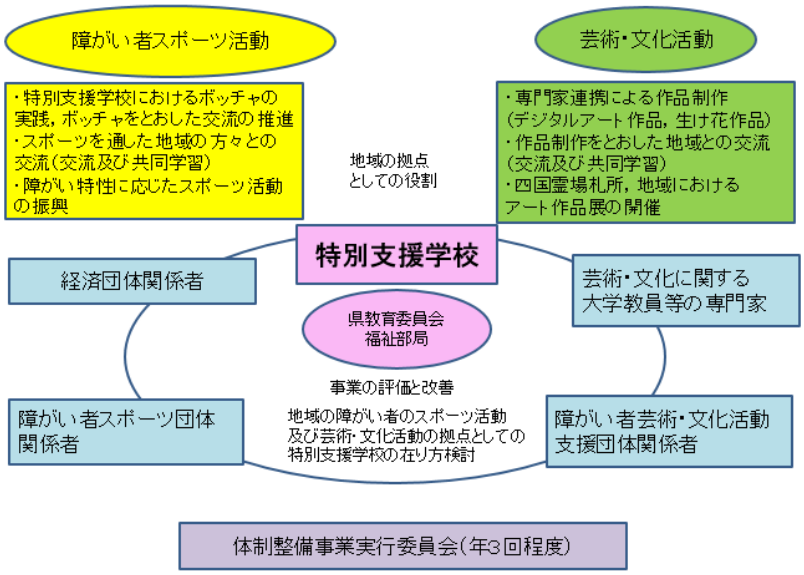
2017 年度　2018 年度　2019 年度

多くの方々に見ていただいています

Ⅰ　実行委員会

1　実行委員会概要

（1）事業実施体制



（2）委員会の目的

スポーツ庁の委託事業「Special プロジェクト 2020」体制整備事業を実施するにあたり，徳島県「Special プロジェクト 2020」体制整備事業実行委員会を設置し，特別支援学校が地域の障がい者の芸術・文化活動及びスポーツ活動の拠点の役割を担う方策について検討するとともに，本事業の評価を行う。

（3）検討事項

・徳島県内のスポーツ・文化関係者（行政，学校，スポーツ団体，文化団体，経済団体，有識者等）から構成し，徳島県内の関係機関のネットワークを構築する。
・地域の障がい者スポーツ活動及び芸術・文化活動の拠点としての特別支援学校の在り方について検討する。

（4）委員名簿（敬称略）

区　分	所　属　・　職　名	氏　名	備　考
学識経験者	徳島文理大学人間生活学部児童学科准教授	冨樫　敏彦	委員長
芸術専門家	四国大学生活科学部生活科学科 デザインコース准教授	上野　昇	
スポーツ	徳島県障がい者スポーツ協会次長	岡本　洋明	
芸術団体	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター	西木　正	
経済団体	株式会社キョーエイ人事部長	富田　圭司	
行政	徳島県保健福祉部障がい福祉課 障がい者活躍推進担当室長	原内　孝子	
	徳島県教育委員会特別支援教育課　課長	猪子　秀太郎	

２　検討状況

（第１回実行委員会）

日時　　令和元年７月 17 日（水）13:30～14:30

場所　　徳島県職員会館　第１会議室

出席委員　７名

概要　　委員長選任，事務局による事業の概要説明

（委員からの主な意見等）

・スポーツや芸術活動は，特別支援学校のなかでもとても大事な学習活動。地域に開いていく。

〇スポーツ活動

・今年もボッチャの伝達講習を開催。鴨島支援学校では，ボッチャのランプスを自作されているので使い方を含めて紹介できたら，と考えている。９月４日のボッチャ交流会については，楽しめるような形で実施したい。

〇芸術文化活動

・きらめきアート展に向けて，作品制作をしていく。より生徒主導でできるような新たなやり方，生徒の発想やセンスをいかせるような指導方法を先生方と進めていきたい。今年度，鴨島支援学校が四国大学と協力して着ぐるみを制作する。高等部の生徒と大学生との共同制作。互いに発見があると思うので，そこに期待しながら取り組みたい。

・特別支援学校の生徒と大学生との交流というのはよい。

・店舗におけるアート展を増やしていきたい。芸術・文化では，作って完成させる喜びと見てもらう喜びがある。店舗ではスペースが限られる場合があるが，できるだけたくさんの作品を展示できるようにしたい。

・きらめきアート展と卵展を同時開催で，今年も相乗効果で多くの方に見ていただけるよう期待している。

〇連携について

・障がい福祉課では，一般の方の芸術・文化やスポーツ活動に取り組んでいる。学校と社会の線引きは，境目がなくなってきて，波線のようになり，区切る意味がなくなってきているので，協力し，連携していかなければならない。われわれも，徳島県障がい者スポーツ協会や，徳島県障がい者芸術文化活動支援センターと連携しているが，県西部や県南部では拠点が無いため，特別支援学校が拠点となって開拓していただいて，われわれも，勉強しながら県下全体のスポーツ活動，芸術文化活動を進めていきたい。両輪として，取り組ませていただけたらありがたい。

・委員のみなさんがそれぞれ特別支援学校のためにとても大事な役割を果たしていただいている。

・今の特別支援学校の児童生徒のスポーツ・文化を育てることは，一生涯のスポーツ・文化の振興につながる。母校を中心に広げていくことが可能になるのではないか。このような方策を，教育委員会と知事部局で相談してやっていけたら，完全な徳島モデルになるだろう。

（第２回実行委員会）

日時　　令和元年 12 月 20 日（金）14:00～15:00

場所　　徳島県職員会館　サークル室

出席委員　冨樫委員長ほか５名

概要　　事務局による事業の進捗状況説明，意見交換

（委員からの主な意見等）

〇スポーツ活動

・ボッチャ交流会では，特別支援学校の生徒は，みんなで作戦をたてながらボールを投げ，わいわい楽しそうにやってくれた。審判を申し出る生徒もいて，一緒にやった。有意義な取組だった。

・ボッチャ伝達講習では，ボールをさわるところから始め，ルールが簡単なので，先生方も楽しんでやっていた。ゲームになると一生懸命になるので，講習会のときには取り入れるとよい。

・事業で道具を購入し，学校で子どもたちがボッチャを実践している。先生方にもボッチャの普及が図られている。それ以外にも，ボッチャはメディアで取り上げられている。十分とは言えないまでも，障がい者スポーツの拡がりは実感として感じられる。

・ボッチャ交流会は，技能甲子園（就労支援のイベント）のときに同時開催。すぐにできて楽しめるため，大変好評であり，今後も継続できる。

〇芸術・文化活動

・店舗での展示は，スペースの都合が限られているため，コンパクトに展示。気軽な形で展示をし，買い物に来た方に見ていただいている。お客様に見ていただくことはもちろんだが，従業員の啓発にもつながっている。また，作品展示とあわせて学校の文化祭の告知を行うケースがあり，きらめきアート展のポスター等も掲示予定である。作品展示だけでなく，いろいろな告知にも活用できるといい。

・店舗での展示は，取組を始めたときから，実施校数が増えていっている。

・きらめきアート展のときに，障がい者アーティストの卵発掘展，アールブリュット再考３展もを同時開催。今年度は，鴨島支援とひわさ分校で（障がい者芸術・文化活動支援センターの）陶芸講座を実施しており，きらめきアート展にも陶芸作品を展示。今後もこのようなかたちでいろいろな交流ができるといい。

〇連携について

・オリパラを控え，障がいの理解啓発，スポーツや芸術活動が地域に密着して広がっていることはありがたい。オリパラ後も引き続き，続けていただきたい。

・本事業では，スポーツと芸術文化の活動を紹介したが，ほかに企業とのつながりとして，就業体験や就労支援施設とのリサイクル素材回収等がある。それが広がって，作品展開催につながり，取組が重層的になっている。大変ありがたいことである。

・徳島県では，教育委員会と知事部局と企業もいっしょに，特別支援学校の就労支援やスポーツ，芸術・文化等の活動に取り組んでいる。これらを俯瞰してまとめられるといい。

（第３回実行委員会）

日時　　令和２年３月 11 日（水）15:00～16:30

場所　　徳島県庁　1104 会議室

出席委員　冨樫委員長ほか６名

概要　　今年度取組の最終評価，今後の取組について

（委員からの主な意見等）

〇スポーツ活動

・ボッチャも他の障がい者スポーツも普及が進んでいる。フライングディスク等は，障がい者スポーツ初級指導者の講習も行っており，参加される一般の学校や特別支援学校の先生もいる。多くの方が資格をとって，障がい者スポーツに関わっていただきたい。

〇芸術・文化活動

・3 年間継続して取り組んでいる。先生方から「次は，こんなことがしたい」等の提案や要望が積極的に聞かれるようになってきた。これまで積み重ねている結果と思う。

・今年は，店舗でのアート展の実施校数が増えた。作品の数も増え，お客様の目をひくようになり，足を止めて見てくれている方もいる。展示をする店舗をもっともっと増やしたい。利用者が多いので，見てくれる方も多い。今年同様、アート展等イベントの告知にも，今後協力できる。

・「継続は力なり」で，だんだん市民権を得てきている。障がい者の芸術・文化について，福祉の関係者でやっているというのはよくあることで，企業にも協力してもらって取り組んでいるのは，なかなか他県では見られないこと。

・きらめきアート展では，例年より作品が大きくなり，作品数も増え，年々盛り上がってきている印象を受けた。ひわさ分校で陶芸の出前授業を行ったが，きらめきアート展に出品してくれており，なかなかいい連携ができているのではないか，と思う。芸術・文化は，作品を作る楽しみと，作品を見ていただけるという発表の楽しみがある。きらめきアート展はよい試み。

・アート展のアンケート結果では，（情報入手方法は）チラシを見て，という人も多い。啓発や情報提供の影響は大きいと，改めて驚いた。

・今後，プレスへの情報提供は足並みを揃え，アールブリュットと卵展，きらめき，と３会場ともに取材していただけるとよいと思う。

・来年度が本番の年。障がい福祉課も，スポーツや芸術に，取り組んでいく。いろいろと連携していきたい。

〇今後について

・継続してきたことが市民権を得て，今後も連携を継続できる。特別支援学校の子どもたちにとっても励みになっている。卒業して，働く方も施設に入られる方もいるが，大人の方のスポーツ活動や芸術・文化活動につながっていくように思う。特別支援学校の時代にこのような経験がなければ，大人の方のスポーツ活動や芸術・文化活動もなかなか育っていきにくいのではないか。小さいとき，学生のときからスポーツ活動や芸術・文化活動に取り組むことが大切。